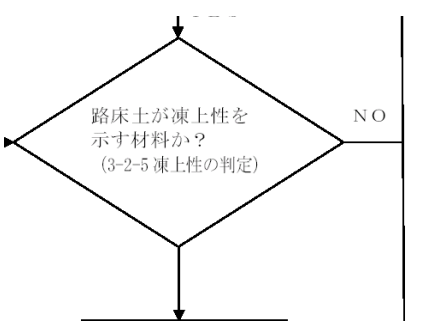
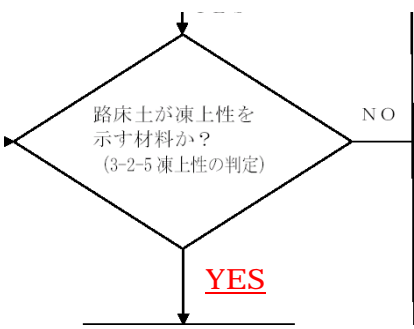
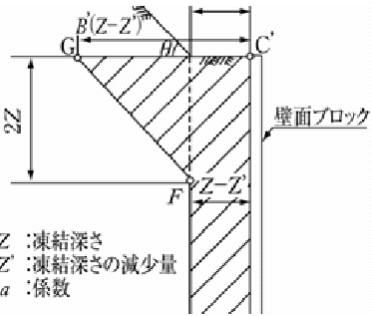
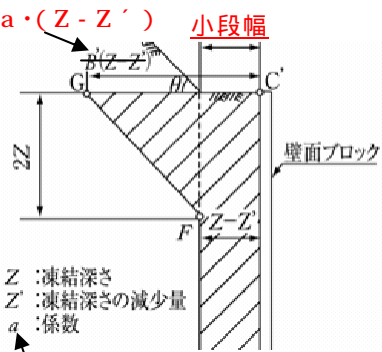
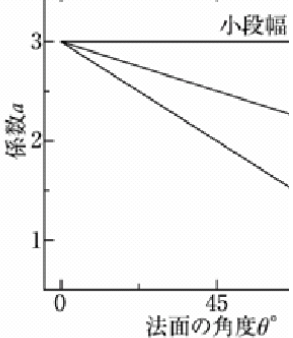
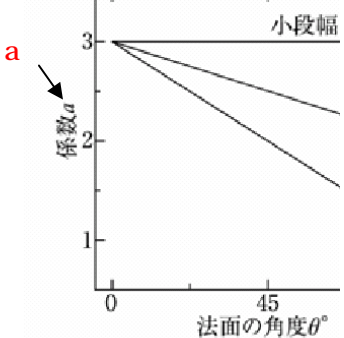


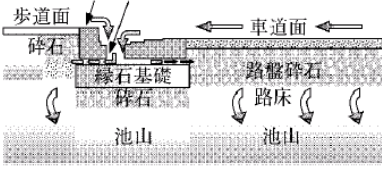
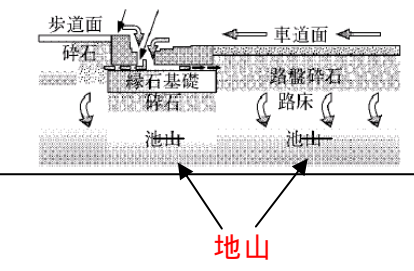
道路土工要綱の訂正 [平成 2 1 年 1 0 月] (第 3 刷で修正済)

箇所	修正前	修正後
p.31 2-4 枠 (2)	(2) . . . . , これまでの経験・実績から(1)を満足する仕様等, 適切な . . . .	(2) . . . . , これまでの経験・実績から <u>妥当と見なせる手法等</u> , 適切な . . . .
p.34 下から 7 行目	また, これまでの経験・実績から(1)を満足する仕様(材料, 施工方法等)については, . . . .	また, これまでの経験・実績から <u>妥当と見なせる手法</u> (材料, 施工方法等)については, . . . .
p.51 解表 1-5 「膨張性の岩石」 の「岩石名」の欄	蚊紋岩, 泥岩, . . . .	<u>蛇</u> 紋岩, 泥岩, . . . .
p.80 7 行目	. . . . 地盤の深さ方向の <u>物理的</u> , 力学特性を, . . . .	. . . . 地盤の深さ方向の <u>物理的</u> <u>特性</u> , 力学特性を, . . . .
p.81 中段 (5) 室内試験 1 行目後半	. . . . 十分に明らかにすることはできない場合は, . . . .	. . . . 十分に明らかにすることは <u>が</u> できない場合は, . . . .
p.84 中段 ( ) のり面, 擁壁等 . . . . 1 行目	構造物の変状 <u>の</u> の主要原因 . . . .	構造物の変状 <u>の</u> 主要原因 . . . .
p.85 解表 1-11 「軟岩」の「適用」 の欄	弾性波速度 700 ~ <u>2.800</u> m / sec	弾性波速度 700 ~ <u>2,800</u> m / sec
p.96 中段 ( ) 有毒ガスの 調査 2 行目	ゴミ <u>捨</u> 場等の . . . .	ゴミ <u>捨</u> 場等の . . . .

<p>p.101 6行目 後半以降</p>	<p>また、解図2-3に示す・・・ 目的も有する。</p>	<p><del>また、解図2-3に示す・・・</del> <del>目的も有する。</del> ＜解図2-3ではこの目的も示しており、<b>一文は削除。</b>&gt;</p>																																																						
<p>p.108 最終行</p>	<p>土工構造物の・・・</p>	<p>(一字下げて)土工構造物の・・・</p>																																																						
<p>p.114 2行目</p>	<p>・・・事前にそれぞれの道路管理者と<u>事前</u>によく・・・</p>	<p>・・・事前にそれぞれの道路管理者と<u>事前</u>によく・・・ ＜「事前に」が重複しているため<b>削除</b>&gt;</p>																																																						
<p>p.116 解図2-9 「調査項目」 最下段</p>	<p>地下水位・<u>滞</u>水層 地層構造 その他</p>	<p>地下水位・<u>帯</u>水層 地層構造 その他</p>																																																						
<p>p.125 2-3-5 枠内2行目</p>	<p>・・・表面水，浸透水を<u>推定</u>して・・・</p>	<p>・・・表面水，浸透水を<u>推定</u>して・・・</p>																																																						
<p>p.125 2-3-5 解説3行目</p>	<p>・・・表面水，浸透水を<u>推定</u>し，・・・</p>	<p>・・・表面水，浸透水を<u>推定</u>し，・・・</p>																																																						
<p>p.130 解図2-14 内の区分表 ＜HP上の図は差し替え済み＞</p>	<table border="1" data-bbox="507 1294 842 1742"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>地方</th> <th>降雨強度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>北海道</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>青森</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>秋田、岩手、山形、宮城、新潟、福島、長野・山梨の盆地</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>茨城、長野、山梨、富山、石川、福井、滋賀、京都、大坂、兵庫、鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>静岡、愛知、岐阜、三重(志摩以北)、奈良(大和川以北)、大分、小笠原諸島</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、福岡、熊本、宮崎</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>三重(志摩以南)、奈良(紀ノ川以南)、和歌山、徳島、高知、佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>沖縄</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table>	区分	地方	降雨強度	1	北海道	60	2	青森	70	3	秋田、岩手、山形、宮城、新潟、福島、長野・山梨の盆地	80	4	茨城、長野、山梨、富山、石川、福井、滋賀、京都、大坂、兵庫、鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛	90	5	静岡、愛知、岐阜、三重(志摩以北)、奈良(大和川以北)、大分、小笠原諸島	100	6	栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、福岡、熊本、宮崎	110	7	三重(志摩以南)、奈良(紀ノ川以南)、和歌山、徳島、高知、佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島	120	8	沖縄	130	<table border="1" data-bbox="954 1294 1289 1742"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>地方</th> <th>降雨強度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>北海道</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>青森</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>秋田、岩手、山形、宮城、新潟、福島、長野・山梨の盆地</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>茨城、長野、山梨、富山、石川、福井、滋賀、京都、大坂、兵庫、鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、徳島(吉野川流域)</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>静岡、愛知、岐阜、三重(志摩以北)、奈良(大和川以北)、大分、小笠原諸島</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、福岡、熊本、宮崎</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>三重(志摩以南)、奈良(紀ノ川以南)、和歌山、徳島(吉野川以南)、高知、佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>沖縄</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table> <p>編み掛けを無くした。また、区分4に「徳島(吉野川流域)」を追加。区分7の徳島は「徳島(吉野川以南)」とする。</p>	区分	地方	降雨強度	1	北海道	60	2	青森	70	3	秋田、岩手、山形、宮城、新潟、福島、長野・山梨の盆地	80	4	茨城、長野、山梨、富山、石川、福井、滋賀、京都、大坂、兵庫、鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、徳島(吉野川流域)	90	5	静岡、愛知、岐阜、三重(志摩以北)、奈良(大和川以北)、大分、小笠原諸島	100	6	栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、福岡、熊本、宮崎	110	7	三重(志摩以南)、奈良(紀ノ川以南)、和歌山、徳島(吉野川以南)、高知、佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島	120	8	沖縄	130
区分	地方	降雨強度																																																						
1	北海道	60																																																						
2	青森	70																																																						
3	秋田、岩手、山形、宮城、新潟、福島、長野・山梨の盆地	80																																																						
4	茨城、長野、山梨、富山、石川、福井、滋賀、京都、大坂、兵庫、鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛	90																																																						
5	静岡、愛知、岐阜、三重(志摩以北)、奈良(大和川以北)、大分、小笠原諸島	100																																																						
6	栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、福岡、熊本、宮崎	110																																																						
7	三重(志摩以南)、奈良(紀ノ川以南)、和歌山、徳島、高知、佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島	120																																																						
8	沖縄	130																																																						
区分	地方	降雨強度																																																						
1	北海道	60																																																						
2	青森	70																																																						
3	秋田、岩手、山形、宮城、新潟、福島、長野・山梨の盆地	80																																																						
4	茨城、長野、山梨、富山、石川、福井、滋賀、京都、大坂、兵庫、鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、徳島(吉野川流域)	90																																																						
5	静岡、愛知、岐阜、三重(志摩以北)、奈良(大和川以北)、大分、小笠原諸島	100																																																						
6	栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、福岡、熊本、宮崎	110																																																						
7	三重(志摩以南)、奈良(紀ノ川以南)、和歌山、徳島(吉野川以南)、高知、佐賀、長崎、鹿児島、伊豆諸島	120																																																						
8	沖縄	130																																																						

p.135 式(解2-8)	$Q = (1/3.6 \times 10^6) C \cdot I \cdot \underline{A}$ あるいは $Q = (1/3.6) C \cdot I \cdot \underline{a}$	$Q = (1/3.6 \times 10^6) C \cdot I \cdot \underline{a}$ あるいは $Q = (1/3.6) C \cdot I \cdot \underline{A}$
p.137 解表 2-4 「水路の状況」の 欄の5行目	" (ペー <u>ピ</u> ングあり)	" (ペー <u>ピ</u> ングあり)
p.141 中段	・・・設計上は, 式(解2- <u>11</u> )の・・・	・・・設計上は, 式(解2- <u>12</u> )の・・・
p.143 解図 2-17 中段右側	(2) <u>短</u> 形側溝	(2) <u>矩</u> 形側溝
p.145 解図 2-18 下段	( ) 皿 <u>型</u> 側溝の例	( ) 皿 <u>形</u> 側溝の例
p.156 下から 10~11行目	・・・, 横断勾配 S および <u>通水</u> 可能幅 B・・・	・・・, 横断勾配 S および <u>許容</u> <u>通水幅</u> B・・・
p.157 解図 2-29 グラフ左側	のみ口の長さ L = 60cm	<del>のみ口の長さ</del> <del>L = 60cm</del> < 下の説明と重複のため削除 >
p.170 14行目	・・・砂質土で地下水 <u>泣</u> が・・・	・・・砂質土で地下水 <u>位</u> が・・・
p.173 中段 ( ) 2行目	・・・石積側溝は, <u>間</u> 詰め, または・・・	・・・石積側溝は, <u>間</u> 詰め, または・・・
p.181 下から 6 行目	・・・, 盛土内へ浸入する・・・	・・・, 盛土内へ <u>水</u> が浸入する・・・
p.184 2-8 枠内 2行目	・・・, <u>常</u> に清掃を行う・・・	・・・, 清掃を行う・・・ < 1行目との重複のため削除 >

<p>p.203 解図 3-2</p> <p>右下側</p>		
<p>p.217 解表 3-3</p>	<p>1)盛土高さは解図 2-56 による。</p>	<p>1)盛土高さは「<u>道路土工 - 盛土工指針</u>」による。</p>
<p>p.226 解説の 3 行目</p>	<p>・・・側壁に大きな凍上量が・・・</p>	<p>・・・側壁に大きな凍上<u>力</u>が・・・</p>
<p>p.228 解図 3-12</p> <p>左上図</p>	 <p>Z : 凍結深さ Z' : 凍結深さの減少量 a : 係数</p>	 <p><math>a \cdot (Z - Z')</math> 小段幅</p> <p>Z : 凍結深さ Z' : 凍結深さの減少量 a : 係数</p>
<p>p.228 解図 3-12</p> <p>右上図</p>		

<p>p.245 解図 4-7 (c) 図</p>		
<p>p.246 解図 4-8 (b) 図 説明文</p>	<p>・・・この中に有効管・・・</p>	<p>・・・この中に有孔管・・・</p>
<p>p.284 中段</p>	<p>・・・切土によって発注する・・・</p>	<p>・・・切土によって発<u>生</u>する・・・</p>
<p>p.284 下段</p>	<p>・・・), 切盛土工 (雨期は不適) コンクリート・・・</p>	<p>・・・), 切盛土工 (雨期は不適) <u>レ</u> コンクリート・・・</p>
<p>p.291 中段 ( ) の 3 段落目</p>	<p>・・・, 現在 (平成 19 年) 道路土工・・・</p>	<p>・・・, 現在 (平成 19 年) <u>の</u> 道路土工・・・</p>
<p>p.303 中段 式</p>	$\text{実作業時間率} = \frac{\text{実作時間}}{\text{運転時間}}$	$\text{実作業時間率} = \frac{\text{実作時間}}{\text{運転時間}}$ <p style="text-align: center; color: red;">実作業時間</p>
<p>p.316 下から 2 行目</p>	<p>・・・「労働安全衛生規則」,・・・</p>	<p>・・・「労働安全衛生規則」<u>レ</u>,・・・</p>
<p>p.335 解表 6-4 「地盤改良工」の 「検査対象」</p>	<p><u>(ただし,・・・)</u></p>	<p><u>同上</u> &lt;元の記述は削除&gt;</p>
<p>p.335 解表 6-4 「石・ブロック積 工」の「検査対象」</p>	<p><u>100m につき 1 箇所以上 (ただし,・・・)</u></p>	<p><u>同上</u> &lt;元の記述は削除。上記との整合&gt;</p>
<p>p.360 3 行目</p>	<p>・・・それぞれ求め図<u>し</u>し・・・</p>	<p>・・・それぞれ求め図<u>示</u>し・・・</p>

道路土工要綱の訂正 [平成22年5月更新] (第4刷で修正済)

箇所	修正前	修正後
p.132 上から9行目	継続時間 t と地_10 分間特性係数__ によって決まる補正係数で	継続時間 t と 10 分間特性係数 <u>10</u> によって決まる補正係数で・・・
p.272 解表 5 - 1 「礫混じり土」の 「固結した礫質 土」のLの範囲	1.25 ~ <u>1.40</u>	1.25 ~ <u>1.45</u>

道路土工要綱の訂正 [平成23年3月31日更新] (第6刷で修正済)

箇所	修正前	修正後
<p>p.109 2) 2行名</p>	<p>(2) . . . . , 地盤からの浸透水 が凍上することによって . . .</p>	<p>(2) . . . . , 地盤からの浸透水 の影響により凍上が発生するこ とによって . . .</p>
<p>p.388 Kersten の土質 ごとの実測式 砂質土で未凍結 時の場合の式</p>	<p>砂質土で未凍結時の場合 <math display="block">u = \{ (0.7 \log w - 0.4) \times 10^{0.6242} d^{-3.4628} \} \cdot 418.6</math></p>	<p>砂質土で未凍結時の場合 <math display="block">u = \{ (0.7 \log w + 0.4) \times 10^{0.6242} d^{-3.4628} \} \cdot 418.6</math></p>

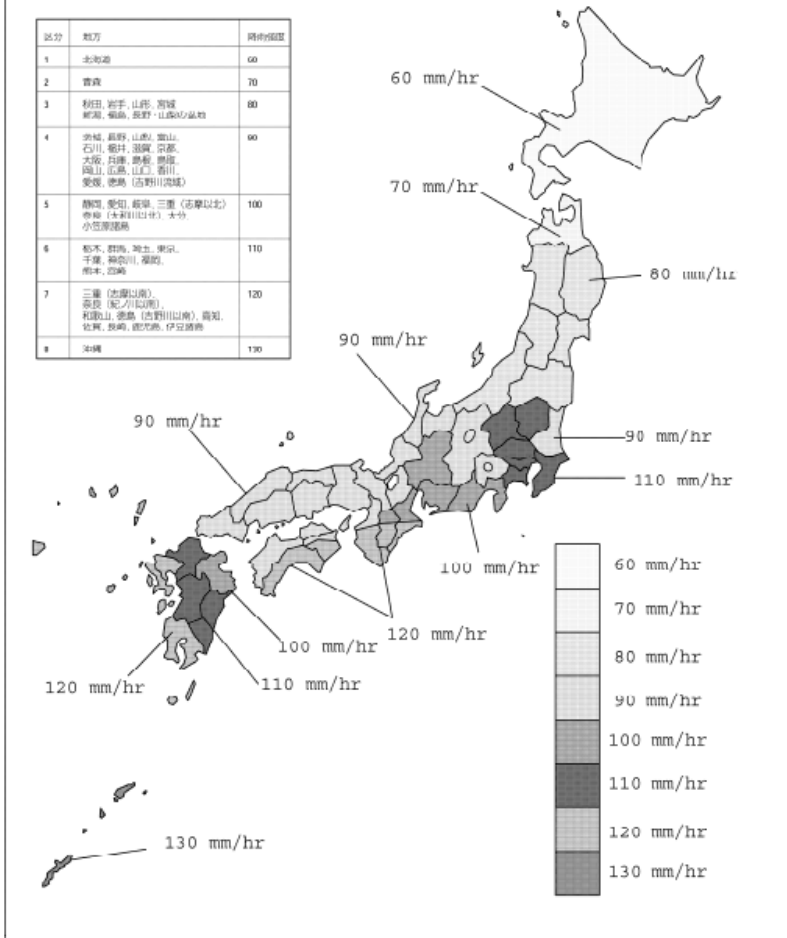
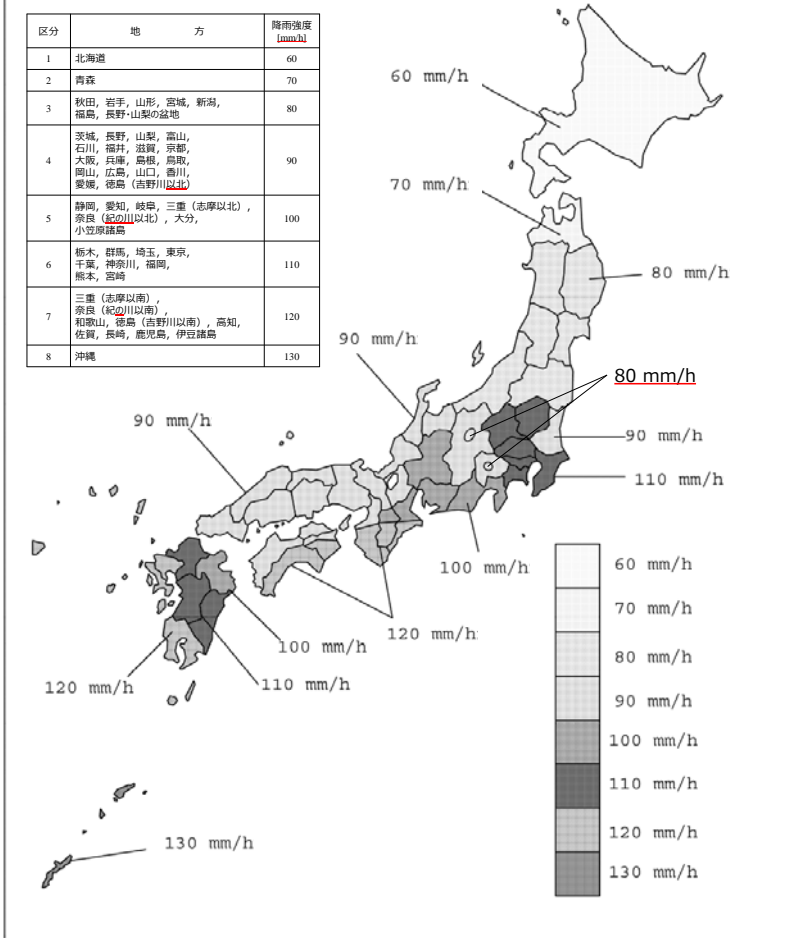
道路土工要綱の訂正 [令和1年9月19日更新] (第12刷で修正済)

箇所	修正前	修正後
p. 352 「資表1-5地域別補正係数の地域区」の対象地域(三)の12行目	鹿児島県	鹿児島県 <u>(名瀬市及び大島郡を除く)</u>



道路土工要綱の訂正 [令和2年 8 月 12 日更新] (第 1 3 刷で修正済)

箇所	修正前	修正後
p.59 解表 1-8 自然含水比 $w_n$ の欄 の下から 2 つ目	70%~100%	<u>100%</u> ~ <u>200%</u>

箇所	修正前	修正後																																																						
<p>p. 130 解図 2-14</p>	<p style="text-align: center;">標準降雨強度図 (1961-2008年気象官署データに基づく3年確率10分間降雨強度)</p> <table border="1" data-bbox="414 414 672 758"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>地方</th> <th>降雨強度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>北海道</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>青森</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>秋田, 岩手, 山形, 宮城, 新潟, 福島, 長野, 山梨の盆地</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>茨城, 長野, 山梨, 富山, 石川, 福井, 滋賀, 京都, 大坂, 兵庫, 鳥取, 徳島, 岡山, 広島, 山口, 香川, 愛媛, 徳島 (吉野川流域)</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>静岡, 愛知, 岐阜, 三重 (志摩以北), 奈良 (紀の山以北), 大分, 小笠原諸島</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>栃木, 群馬, 埼玉, 東京, 千葉, 神奈川, 福岡, 熊本, 宮崎</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>三重 (志摩以南), 奈良 (紀の山以南), 和歌山, 徳島 (吉野川以南), 高知, 佐賀, 長崎, 鹿児島, 伊豆諸島</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>沖縄</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table> 	区分	地方	降雨強度	1	北海道	60	2	青森	70	3	秋田, 岩手, 山形, 宮城, 新潟, 福島, 長野, 山梨の盆地	80	4	茨城, 長野, 山梨, 富山, 石川, 福井, 滋賀, 京都, 大坂, 兵庫, 鳥取, 徳島, 岡山, 広島, 山口, 香川, 愛媛, 徳島 (吉野川流域)	90	5	静岡, 愛知, 岐阜, 三重 (志摩以北), 奈良 (紀の山以北), 大分, 小笠原諸島	100	6	栃木, 群馬, 埼玉, 東京, 千葉, 神奈川, 福岡, 熊本, 宮崎	110	7	三重 (志摩以南), 奈良 (紀の山以南), 和歌山, 徳島 (吉野川以南), 高知, 佐賀, 長崎, 鹿児島, 伊豆諸島	120	8	沖縄	130	<p style="text-align: center;">標準降雨強度図 (1961-2008年気象官署データに基づく3年確率10分間降雨強度)</p> <table border="1" data-bbox="1276 406 1568 766"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>地方</th> <th>降雨強度 (mm/h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>北海道</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>青森</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>秋田, 岩手, 山形, 宮城, 新潟, 福島, 長野, 山梨の盆地</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>茨城, 長野, 山梨, 富山, 石川, 福井, 滋賀, 京都, 大坂, 兵庫, 鳥取, 徳島, 岡山, 広島, 山口, 香川, 愛媛, 徳島 (吉野川以北)</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>静岡, 愛知, 岐阜, 三重 (志摩以北), 奈良 (紀の山以北), 大分, 小笠原諸島</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>栃木, 群馬, 埼玉, 東京, 千葉, 神奈川, 福岡, 熊本, 宮崎</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>三重 (志摩以南), 奈良 (紀の山以南), 和歌山, 徳島 (吉野川以南), 高知, 佐賀, 長崎, 鹿児島, 伊豆諸島</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>沖縄</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center; color: red;">(降雨強度の単位を「mm/hr」から「mm/h」に修正)</p>	区分	地方	降雨強度 (mm/h)	1	北海道	60	2	青森	70	3	秋田, 岩手, 山形, 宮城, 新潟, 福島, 長野, 山梨の盆地	80	4	茨城, 長野, 山梨, 富山, 石川, 福井, 滋賀, 京都, 大坂, 兵庫, 鳥取, 徳島, 岡山, 広島, 山口, 香川, 愛媛, 徳島 (吉野川以北)	90	5	静岡, 愛知, 岐阜, 三重 (志摩以北), 奈良 (紀の山以北), 大分, 小笠原諸島	100	6	栃木, 群馬, 埼玉, 東京, 千葉, 神奈川, 福岡, 熊本, 宮崎	110	7	三重 (志摩以南), 奈良 (紀の山以南), 和歌山, 徳島 (吉野川以南), 高知, 佐賀, 長崎, 鹿児島, 伊豆諸島	120	8	沖縄	130
区分	地方	降雨強度																																																						
1	北海道	60																																																						
2	青森	70																																																						
3	秋田, 岩手, 山形, 宮城, 新潟, 福島, 長野, 山梨の盆地	80																																																						
4	茨城, 長野, 山梨, 富山, 石川, 福井, 滋賀, 京都, 大坂, 兵庫, 鳥取, 徳島, 岡山, 広島, 山口, 香川, 愛媛, 徳島 (吉野川流域)	90																																																						
5	静岡, 愛知, 岐阜, 三重 (志摩以北), 奈良 (紀の山以北), 大分, 小笠原諸島	100																																																						
6	栃木, 群馬, 埼玉, 東京, 千葉, 神奈川, 福岡, 熊本, 宮崎	110																																																						
7	三重 (志摩以南), 奈良 (紀の山以南), 和歌山, 徳島 (吉野川以南), 高知, 佐賀, 長崎, 鹿児島, 伊豆諸島	120																																																						
8	沖縄	130																																																						
区分	地方	降雨強度 (mm/h)																																																						
1	北海道	60																																																						
2	青森	70																																																						
3	秋田, 岩手, 山形, 宮城, 新潟, 福島, 長野, 山梨の盆地	80																																																						
4	茨城, 長野, 山梨, 富山, 石川, 福井, 滋賀, 京都, 大坂, 兵庫, 鳥取, 徳島, 岡山, 広島, 山口, 香川, 愛媛, 徳島 (吉野川以北)	90																																																						
5	静岡, 愛知, 岐阜, 三重 (志摩以北), 奈良 (紀の山以北), 大分, 小笠原諸島	100																																																						
6	栃木, 群馬, 埼玉, 東京, 千葉, 神奈川, 福岡, 熊本, 宮崎	110																																																						
7	三重 (志摩以南), 奈良 (紀の山以南), 和歌山, 徳島 (吉野川以南), 高知, 佐賀, 長崎, 鹿児島, 伊豆諸島	120																																																						
8	沖縄	130																																																						

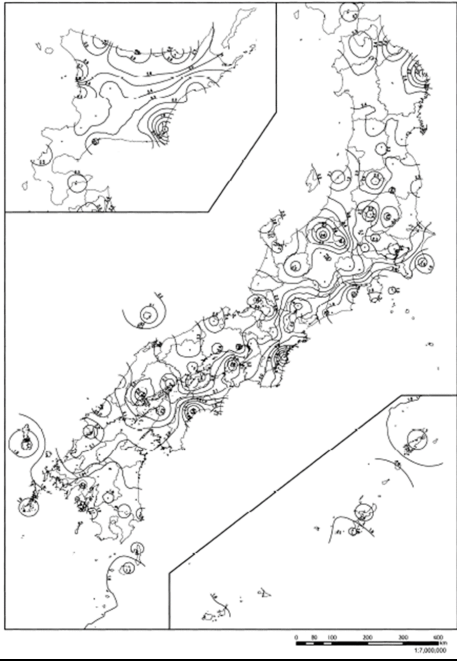
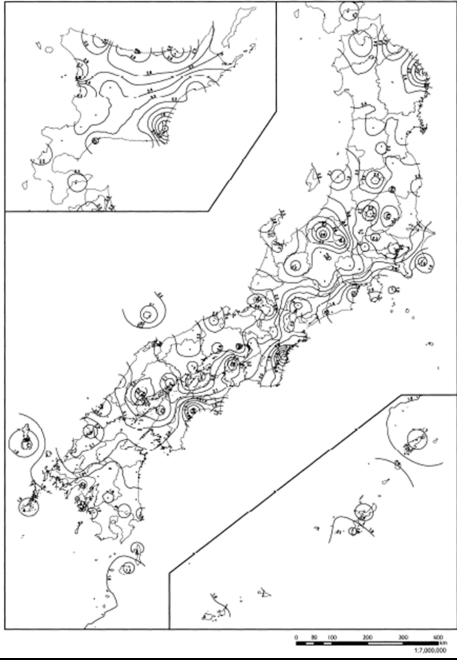
箇所	修正前			修正後		
p. 130 解図 2-14 内の区 分表	区分	地方	降雨強度	区分	地 方	降雨強度 <u>[mm/h]</u>
	1	北海道	60	1	北海道	60
	2	青森	70	2	青森	70
	3	秋田, 岩手, 山形, 宮城 新潟, 福島, 長野・山梨の盆地	80	3	秋田, 岩手, 山形, 宮城, 新潟, 福島, 長野・山梨の盆地	80
	4	茨城, 長野, 山梨, 富山, 石川, 福井, 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 島根, 鳥取, 岡山, 広島, 山口, 香川, 愛媛, 徳島 (吉野川流域)	90	4	茨城, 長野, 山梨, 富山, 石川, 福井, 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 島根, 鳥取, 岡山, 広島, 山口, 香川, 愛媛, 徳島 (吉野川以北)	90
	5	静岡, 愛知, 岐阜, 三重 (志摩以北) 奈良 (大和川以北), 大分, 小笠原諸島	100	5	静岡, 愛知, 岐阜, 三重 (志摩以北), 奈良 (紀の川以北), 大分, 小笠原諸島	100
	6	栃木, 群馬, 埼玉, 東京, 千葉, 神奈川, 福岡, 熊本, 宮崎	110	6	栃木, 群馬, 埼玉, 東京, 千葉, 神奈川, 福岡, 熊本, 宮崎	110
	7	三重 (志摩以南), 奈良 (紀ノ川以南), 和歌山, 徳島 (吉野川以南), 高知, 佐賀, 長崎, 鹿児島, 伊豆諸島	120	7	三重 (志摩以南), 奈良 (紀の川以南), 和歌山, 徳島 (吉野川以南), 高知, 佐賀, 長崎, 鹿児島, 伊豆諸島	120
8	沖縄	130	8	沖縄	130	

道路土工要綱の訂正 [令和4年12月16日更新] (第15刷で修正済)

箇所	修正前	修正後
p.153 解図 2-26 グラフ横軸のタイトル  ※但し、第4刷以前のみ	側溝の横断勾配	側溝の縦断勾配

箇所	修正前	修正後
<p>p.129 (ii) 標準降雨強度図の利用 1～10 行目</p>	<p>路面排水等の流達時間が極めて短くかつ街きよますのように数多くの設計をしなければならない場合には、解図 2-14 に示す標準降雨強度を用いることができる（解図 2-14 の詳細については(社)日本道路協会のホームページを参照されたい）。</p> <p>これは、3年確率 10 分間降雨強度全国図として作成したものである。すなわち、全国約 150 地点における気象官署の 1961～2008 年の 48 年間の降雨資料から 3 年確率 10 分間雨量強度を求め、また、全国約 1,300 地点における AMeDAS 観測所の 1976～2008 年の降雨資料から、後述の (iii) の方法で求めた 3 年確率 10 分降雨強度の分布を参照しつつ、原則として都道府県毎の代表的な降雨強度を設定し、全国マップとしたものである。</p>	<p>路面排水等の流達時間が極めて短くかつ街きよますのように数多くの設計をしなければならない場合には、解図 2-14 に示す標準降雨強度を用いることができる（<del>解図 2-14</del> の詳細については(社)日本道路協会のホームページを参照されたい）。これは、3年確率 10 分間降雨強度全国図として作成したものである。すなわち、全国約 150 地点における気象官署の 1961～2008 年の 48 年間の降雨資料から 3 年確率 10 分間雨量強度を求め、また、全国約 1,300 地点における AMeDAS 観測所の 1976～2008 年の降雨資料から、後述の (iii) の方法で求めた 3 年確率 10 分降雨強度の分布を参照しつつ、原則として都道府県毎の代表的な降雨強度を設定し、全国マップとしたものである。<u>解図 2-14 は(公社)日本道路協会のウェブサイトでも提供されている。また、2008 年以降の降雨資料も用いて求めた標準降雨強度図も併せて提供されているので、参照されたい。</u></p>

箇所	修正前	修正後
<p>p.132 (iii) 特性係数法の適用 14～20 行目</p>	<p>ここに、資料－3に示す10分間特性係数<math>\beta^{10}</math>は、全国150箇所の気象官署における48年間（1961～2008年）の降雨資料から、確率年3，5，7，10，20，30年に対応する10分間降雨強度と60分間降雨強度の比を求め、それらの平均値をとって図示したものである。また、n年確率60分降雨強度<math>R_n</math>は、全国約1,300地点のアメダス観測地点における33年間（1976～2008年）の降雨資料から、確率年3，5，7，10，20，30年に対応する値をそれぞれ求め図示しており、これらについては「資料－4」及び日本道路協会のホームページを参照されたい。</p>	<p>ここに、<u>「資料－3」</u>に示す10分間特性係数<math>\beta^{10}</math>は、全国150箇所の気象官署における48年間（1961～2008年）の降雨資料から確率年3，5，7，10，20，30年に対応する10分間降雨強度と60分間降雨強度の比を求め、<u>それらの平均値をとって図示したものである。また、n年確率60分降雨強度<math>R_n</math>は、全国約1,300地点のアメダス観測地点における33年間（1976～2008年）の降雨資料から確率年3，5，7，10，20，30年に対応する値をそれぞれ求め図示しており、これらについては「資料－4」及びには3年確率60分間降雨強度の全国図を示している。各確率年の<math>R_n</math>の全国図は（公社）日本道路協会のホームページをウェブサイトで提供されている。また、2008年以降の降雨資料も用いて求めた<math>\beta^{10}</math>及び<math>R_n</math>の全国図も併せて提供されているので、参照されたい。</u></p>

箇所	修正前	修正後
<p>p.359 資料－3 降雨の地域特性を示す係数 <math>\beta^{10}</math> 図</p>	 <p>資図 3-1 降雨の地域特性を示す係数 <math>\beta^{10}</math> 図</p>	<p><u>降雨の地域特性を示す係数 <math>\beta^{10}</math> 図は、全国 150 箇所の気象官署における 48 年間（1961～2008 年）の降雨資料から確率年 3, 5, 7, 10, 20, 30 年に対応する 10 分間降雨強度と 60 分間降雨強度の比を求め、それらの平均値をとって図示したものであり、(公社)日本道路協会のウェブサイトでも提供されている。また、2008 年以降の降雨資料も用いて求めた <math>\beta^{10}</math> の全国図も (公社)日本道路協会のウェブサイトで提供されているので、参照されたい。</u></p>  <p>資図 3-1 降雨の地域特性を示す係数 <math>\beta^{10}</math> 図</p>

箇所	修正前	修正後
<p>p.360 資料－4 全国確率 時間降雨強度 (<math>R_n</math>) 図</p>	<p>n 年確率 60 分降雨強度 <math>R_n</math> は、全国約 1,300 地点のアメダス観測地点における 33 年間（1976～2008 年）の降雨資料から、確率年 3, 5, 7, 10, 20, 30 年に対応する値をそれぞれ求め図示したものである。資料として記載するには表示上きびしいため、ここでは代表として 3 年確率 60 分降雨強度図を示すが、各確率年の 60 分間降雨強度図を日本道路協会のホームページに掲載しているので、図の詳細についてはそちらを参照されたい。</p>	<p>n 年確率 60 分間降雨強度 <math>R_n</math> の全国図は、全国約 1,300 地点のアメダス観測地点における 33 年間（1976～2008 年）の降雨資料から確率年 3, 5, 7, 10, 20, 30 年に対応する値をそれぞれ求め図示したものである。資料として記載するには表示上きびしいため、ここでは代表として 3 年確率 60 分間降雨強度図を示すが、各確率年の 60 分間降雨強度図を <u>は(公社)</u> 日本道路協会のホームページに掲載しているので、図の詳細についてはそちらを <u>ウェブサイトで提供されている。また、2008 年以降の降雨資料も用いて求めた <math>R_n</math> の全国図も併せて提供されているので、</u> 参照されたい。</p>

※2024年（令和6年）8月7日更新のP84, P89, P244の正誤修正については、次ページの【道路土工要綱】バージョン管理表（新様式）に移動して掲載

※以上の正誤内容は、電子図書においてはVer1.00で修正・反映済み



## 【道路土工要綱】 バージョン管理表(新様式)

情報管理 No.	種類	正誤表 No.	ページ	箇所 or 行	誤	正	備考	摘要	電子図書 反映状況	紙図書 反映状況
1	正誤表	1	p. 84	下から2行目	(9) 岩及び土砂の分類	(9)(8) 岩及び土砂の分類	「(9)」→「(8)」	2024/8/7掲載	2024.12.27 Ver2.00	—
2	正誤表	2	p. 89	1) 自然環境に関する調査 9行目	1-4 地盤調査 (8) 現場測定...	1-4 地盤調査 (8)(7) 現場測定...	「(8)」→「(7)」	2024/8/7掲載	2024.12.27 Ver2.00	—
3	正誤表	3	p. 244	(1) 舗装本体の貯留・浸透機能を利用する施設 3行目	「4-4 施設の選定」	「4-43 施設の選定」	「4-4」→「4-3」	2024/8/7掲載	2024.12.27 Ver2.00	—
4	正誤表	4	目次 v.		資料-2 岩の地質学的分類	資料-2 岩石の地質学的分類	「岩の」→「岩石の」	2024/12/19掲載	2024.12.27 Ver2.00	—
5	正誤表	5	p. 86	上から9行目	「資料-2 岩石の地質学分類」	「資料-2 岩石の地質学的分類」	「地質学分類」→「地質学的分類」	2024/12/19掲載	2024.12.27 Ver2.00	—
6	正誤表	6	p. 355		資料-2 岩の地質学的分類	資料-2 岩石の地質学的分類	「岩の」→「岩石の」	2024/12/19掲載	2024.12.27 Ver2.00	—